

## (数学) 傾向と対策

### 傾向

#### 様々な分野からの出題があるため、用語や公式を着実に覚える必要がある

##### ①出題形式

日程により形式・試験時間・大問数が異なるので注意が必要である。基礎学力テスト型・R方式・2月試験(前期)2月3日・2月4日はマーク式、2月5日・3月試験は記述形式である。試験時間はR方式のみ国語と合わせて80分であるが、その他の日程はいずれも60分である。大問数はR方式が2題、基礎学力テスト型が4題、その他の日程は3題である。

また、マーク式の日程では解答群が与えられ、その解答群から選択肢を選ぶものもあるため、まずは大問全体を見渡してから解くようにするべきであろう。さらに解答欄の最高位に「0」をマークすることも可能となっており、このようなマーク式の大学は多くないため、注意が必要である。

##### ②出題内容\*

出題範囲は基礎学力テスト型のみ数学ⅠAⅡBである。その他の日程では数学ⅠA(数学と人間の活動を除く)ⅡB(数列のみ)C(ベクトルのみ)となっている。小問集合が含まれる日程が多いため、様々な分野から出題がみられるが小問集合を除くと確率・数列・微積分からの出題が多い。今年度は大問としてベクトルは出題されていないものの過年度では出題されており、数学C(ベクトルのみ)も出題範囲に入っているため忘れずに取り組む必要がある。また、ほとんどの日程において数学Aにおける「数学と人間の活動」は除くとなっているが、2月4日入試のパターン②[Ⅰ]問1の144の正の約数の個数とその総和は問題集により、「場合の数」などに分類されているものもあるが「数学と人間の活動」に分類されているものもあるので注意が必要である。

\* (立正大学注) 2027年度入試の出題範囲については「立正大学 入試ガイドブック 2027」および「2027年度 全学部一般選抜入学試験要項」をご確認ください。

##### ③難易度

難易度に関しては大半が基本から標準レベルであるが、試験時間と分量を考えると試験時間内にすべてを解き切ることは容易ではない。ただ単に問題を解く力だけでなく、しっかりと自分自身が解ける問題を見極めて優先的に取り組む選択力とスピードも問われているようだ。

また、記述形式だけでなくマーク式の問題でも証明や公式の導出が課されており、求値問題にのみ取り組み、証明問題を避けてきた受験生にとっては非常に難しく感じる可能性は否定できない。過年度入試においても必要十分条件を問われており、数学とちゃんと向き合ってきた受験生とそうでない受験生で大きな難易度の差を感じる可能性があるだろう。教科書に載っている公式の証明方法は一度目を通しておくべきであろう。

## 対策

### 基本から標準問題を確実に解き切る力をつける

難問と言われる類のものは出題されないため、基本問題と標準問題をしっかりと解き切る力をつけることに加え、スピードと正確性を兼ねそろえた計算力をつけることが重要である。

まずはすべての分野における基礎知識の徹底を心がける必要がある。穴埋め形式の証明問題や公式の導出問題ではしっかりと誘導されているものの用語の理解が不十分だと誘導に乗り切れず、大きく失点をしてしまう可能性がある。問題集などではあまりこのような問題はないため、過去問演習が効果を発揮するのである。

求値問題においても典型的な解法で求められるものが大多数のため、教科書や傍用問題集に載っている最も典型的な解法を使いこなすことができるようになることが最優先である。別解のようなものに手を出すのではなく、まずは典型的な問題を典型的な解法で解くことができる学力をつけることが有効である。

また、特にマーク式の日程において計算ミスは致命的である。解き方は合っていたがケアレスミスをしてしまったと軽んじることなく、しっかりとミスに向き合う姿勢が必要となる。立正大学におけるマーク式の特徴として、最高位に「0」を入れることが許されている。したがって、入試本番では計算ミスに気づけないケースも出てくるであろう。日頃から計算ミスをせずに一発で正解を導くつもりで問題に取り組もう。

最後に最も気をつけなければならないのが時間配分である。試験時間内に全てを解き切ることが難しいときは、難しい問題を優先的に解くことが大切である。手が止まってしまったが解けそうな問題に出会うこともあるだろうが、深入りせずに解ける問題に移る習慣をつけよう。普段の学習では悩んで解く練習も必要であろうが、入試において一問にこだわることは悪手になりかねない。条件反射的に解けるような問題を増やし、公式を使うだけで即座

に解ける問題か、考えて解く問題なのかを自分で判断できるようになるまで勉強に取り組み、過去問演習では時間配分を意識して取り組もう。